

三番目の声

ひんがしへ ひんがしへゆく

鳥啼く方へ かぎろひ立つ方へと

てくてくとして

滴滴たる 日日にちにちに

もしや ああもしや

ひんがしへ向かいしに

西の方に着きはしまいか

きみを好きで好きで好きでいるのに

いつかイヤになってしまふように

甘やかな語らいが苦行の時となるように

いいえ それは まったく 違います

たぶん詩的で酔わせることば

そっちに流すことではない

直線から離れてひとつの点を打て

ひとつの線とひとつの点で

平面アルファを拓け

どうどうと

くるりと くるりくるりと まわる中にも

花は踏むまい

花はたねを生み たねは花とひらけゆく

豊かなれ